

①存在:その世界では何がどう存在しているか	
1	第二書庫には魔女がいる
2	↑はウワサになっている
3	理宮は「予言」ができる(ことわざに隠してある)
4	市村友希は理系進学コースである
5	魔女の正体は理宮真奈である
6	鈴高には寮が存在する
7	理宮真奈と市村友希の記憶で構成されている
8	二人の記憶にないものは認識できない
9	理宮真奈は文系特進コースである
10	寮は大火事で焼失している
11	生徒たちは市村と理宮が覚えている人間しか個として見れない

②思念:その世界ではメインキャラが存在をどうしているか		
1	自身は魔女として存在することを是とする	「魔女」にうたがいをもちながらも信用している
2	ウワサを受け入れ魔女として受け入れている	ウワサを信じていない。だが、信用するしかない
3	昔から「予言」を自覚している	「予言」に隠された真意を見出せないでいる
4	市村が数学ができることを素直に感心している	数学ができることをしっかり自覚して努力している
5	理宮は自身でそれを認めむしろそう名乗っている	疑いながらも受け入れざるをえない
6	寮の女子棟 402号室で暮らしている	寮の男子棟 202号室で暮らしている
7	二人とも自覚していない(できない)	
8	その事象を少し悟っている	全く感じていない。認められない
9	文系特進コースであることを誇っている	理宮の書く小説に魅力を感じている
10	二人とも認識していない(意識不明・重体)	
11	若干それに気づき始めている	まったく気がつけず、不安にも思わない
	理宮真奈	市村友希

③説明:存在はどういうものか	
1	第二書庫には「魔女」と呼ばれる女子生徒がいる
2	ウワサは静かに流れているが、大っぴらにはしていない
3	理宮の言葉(ことわざ)が事件のあらましになっている(要になっている)
4	学園メモ参照
5	魔女の正体は普段隠されている。理宮の存在はほぼ隠されている
6	希望者は入ることができる。4階×20部屋×2棟
7	市村と理宮の超意識で作られていて2人は意識不明
8	意識の中で意識していない(記憶に無い)モノは作れない
9	学園メモ参照
10	不良生徒の放火によりぜんしょうしてしまった(数人死亡、意識不明)
11	超意識的な世界にいるためである

④変化:物語の中でそれはどう変わるか	
1	変化なし(物語のキーパーソンと化する)
2	少しずつ違和感を感じるようになる
3	段々とその指向が強くなる
4	変化なし(季節が変化しても2年生のまま)
5	変化なし(魔女は魔女として変わらず第二書庫に居る)
6	市村の記憶にフラッシュバックするようになる
7	市村はその情景に不安を覚える
8	理宮の記憶は市村に、反対も同じく認識できる
9	変化なし(と同じ)
10	理宮と市村が目覚ます頃には全て片付けられている
11	犯罪を犯した生徒も普通に教室にいるようになる

⑤理由:どうしてそう変化していくのか	
1	魔女としての性質が強くなり、物語のシンボルになるため
2	毎日のように人が訪れるのに、静かなウワサで収まっている
3	理宮が意識を取り戻していき、自我が強くなる
4	何の疑問も持てないまま時間だけが過ぎていく
5	理宮は事件現場やそれに近い場所にいる以外第二書庫だけにいる
6	市村の意識が戻るから
7	普段と違う街の姿などに精神を保てなくなる
8	徐々に記憶が壊れていくため世界が崩壊を始める
9	と同じだが理宮が市村よりも少し浅いところにいる
10	犯行は解決され全ては終わっている。放火だった
11	記憶のほころびが始まり、説明がしがたくなっていく

前提

私立鈴蘭高等学校のある教室、第二書庫には「魔女」が住んでいる。
 鈴高は名門であり、多くの生徒が通う。
 しかし広大な敷地を要するため、山の奥にあり、寮に住む生徒も多くいる。
 ある日、寮にイタズラをされ、全焼してしまうという事件が起きる。
 命からがらに逃げた生徒もいれば意識不明の重体者もいた。
 その中に二人、理宮真奈と市村友希の奇妙な物語…。

顛末 → プロット(別紙)参照